

国語科学習指導案（4年〇組）

1 単元名 作者の思いについて話し合おう 「ごんぎつね」

2 考察

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年「C読むこと」の「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を受けて設定するものである。単元全体を通しての言語活動は、言語活動例「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」を受けて、「物語に込められた作者の思い」について話し合う活動を設定した。

本教材は、「わたし」の語りで始まる、山に住む一人ぼっちの小ぎつね「ごん」と、村人「兵十」との関わりを中心に展開する物語である。「ごん」と「兵十」の二人の登場人物のすれ違いが題材となっている。この時期の児童は、友達関係の広がりとともに関わり方も複雑になってきている。「ごん」が「兵十」へのいたづらを後悔してひたむきに償いをする様子、反対にいたづらをされた「兵十」の気持ちなど、登場人物の言動に寄り添いながら自分の経験と照らし合わせて読むことができる教材であると考えられる。また「ごん」と「兵十」の心のすれ違いが生み出す思いがけない結末は、児童の想像をかき立て、様々な角度から物語を捉えることができる。感じ方や考え方が異なる友達同士で、一人一人の思いから引き出された物語の主題や、考えの根拠となる叙述を伝え合って読みを広げ、多面的に物語を捉えるのに適していると考えられる。

以上のことから「ごんぎつね」は、個々の児童が感じたことや考えたことを互いに伝え合いながら、想像を広げて読む力を育てるのに適した教材であると考えられる。

(2) 指導方針

- ・文学的な文章の読み方を身に付けさせるために、どのように読むのかという読みの手掛かりを示し、読み方を意識して読ませるようにする。
- ・積極的に意見を言える児童がいる一方で、発言に対して消極的な児童もいる。一人一人の読みが尊重され、読んだことを共有できる学習形態を工夫する。

3 研究とのかかわり

一人一人の児童が想像を広げて読むことができるようにするために、読みの視点を取り入れたジグソー型学習を行う。読みの視点を取り入れたジグソー型学習は、ジグソー学習やジグソー法と言われる学習形態の小課題に、読みの視点を担わせた学習方法である。読みの視点は、文学的な文章を読む時の手掛かりとして一般的に使われているもので、これらを、人物読み・山場読み・題名読みの三つに集約した。この三つの読みの視点は、小学校の発達段階における指導事項を包括し作品を捉えることができる。受け持った読みの視点で個々に読み、同じ読みの視点で読んだことを伝え合う活動、違う読みの視点で読んだことを伝え合う活動、全員の読みを共有する活動を通して、それぞれの読みの視点での読み、感じ方や考え方の異なる複数の他者の読みに出合うことで、想像を広げて読む力を育てたいと考える。

4 単元の目標

- ・場面の移り変わりや登場人物の人柄や気持ちなどについて、叙述を基に想像を広げて読むことができる。
- ・文章を読んで考えたことを伝え合い、一人一人の考え方や感じ方に違いがあることに気付くことができる。

5 指導計画（全7時間予定）

評価 規 準	国語への関心・意欲・態度	物語に興味を持ち、心に残ったことを大切にしながら、進んで読もうとしている。		
	読む能力	場面の移り変わりや登場人物の気持ちなどについて、一人一人の考え方や感じ方の違いを受け止めながら、想像を広げて読んでいる。		
	言語についての知識・理解・技能	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。		
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読みの知識 ○語句の意味の知識 ○時間的な順序や事柄の順序を表す言語の知識 ○文章構成の知識 	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述から必要な情報を取り出す力 ○叙述から心情や情景を想像する力 ○感じたり考えたりしたことを文章に書き表す力 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を知り、学習の見通しを持つ。 ○範読を聞く。 ○語句の意味を確かめる。 ○音読練習をする。 ○作者の思いについて個の読みを持つ。
第2時		<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読みの知識 ○語句の意味の知識 ○時間的な順序や事柄の順序を表す言語の知識 ○文章構成の知識 	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述から必要な情報を取り出す力 ○叙述から心情や情景を想像する力 ○感じたり考えたりしたことを文章に書き表す力 	<ul style="list-style-type: none"> ○黙読をする。 ○物語の土台を場面ごとに整理する。 ○教材文の文章構造、時代背景などについて知る。
第3時	ひろげる	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読みの知識 ○語句の意味の知識 ○時間的な順序や事柄の順序を表す言語の知識 ○文章構成の知識 	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述と自分の考えを関連付けて考える力 ○叙述から必要な情報を取り出す力 ○叙述から心情や情景を想像する力 ○感じたり考えたりしたことを文章に書き表す力 ○言葉を通じて伝え合う力 ○他者の読みから、多様な感じ方や考え方に気付く力 ○他者の読みと自分の読みを、比較したり、関連付けたりする力 ○考えを形成し深める力 	<ul style="list-style-type: none"> ○読みの視点での読み方を知り、読みの視点を受け持つ。 ○受け持った読みの視点で個々に読む。
第4時		<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読みの知識 ○語句の意味の知識 ○時間的な順序や事柄の順序を表す言語の知識 ○文章構成の知識 	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述から心情や情景を想像する力 ○感じたり考えたりしたことを文章に書き表す力 ○言葉を通じて伝え合 	<ul style="list-style-type: none"> ○黙読をする。 ○同じ読みの視点を持つ者同士でエキスパートグループを作り、読みの視点で読んだことを伝え合う。 ○エキスパートグループで

			う力 ○他者の読みから、多様な感じ方や考え方に気付く力 ○他者の読みと自分の読みを、比較したり、関連付けたりする力 ○考えを形成し深める力	話し合ったことを、ジグソーグループで伝えられるように準備する。
第5時		○漢字の読みの知識 ○語句の意味の知識 ○時間的な順序や事柄の順序を表す言語の知識 ○文章構成の知識	○叙述から心情や情を想像する力 ○感じたり考えたりしたことを文章に書き表す力 ○言葉を通じて伝え合う力 ○他者の読みから、多様な感じ方や考え方に気付く力 ○他者の読みと自分の読みを、比較したり、関連付けたりする力 ○考えを形成し深める力	○黙読をする。 ○違う読みの視点を持つ者同士でジグソーグループを作る。 ○それぞれの読みの視点で読んだことを伝え合い、作者の思いについて話し合う。 ○ジグソーグループで話し合ったことを、クロストークで伝えられるように準備する。
第6時		○漢字の読みの知識 ○語句の意味の知識 ○時間的な順序や事柄の順序を表す言語の知識 ○文章構成の知識	○叙述から心情や情景を想像する力 ○感じたり考えたりしたことを文章に書き表す力 ○言葉を通じて伝え合う力 ○他者の読みから、多様な感じ方や考え方に気付く力 ○他者の読みと自分の読みを、比較したり、関連付けたりする力 ○考えを形成し深める力	○黙読をする。 ○ジグソーグループで話し合ったことを全員で共有する。 ○他のグループの考えを知り、疑問に思ったことやもっと詳しく聞いてみたいことなどについて交流する。 ○作者の思いについてもう一度一人で考えながら読む。
第7時	ふりかえる	○漢字の読みの知識 ○語句の意味の知識 ○時間的な順序や事柄の順序を表す言語の知識 ○文章構成の知識	○自分の学習に対する考察の力	○黙読をする。 ○読みの変容を確かめる。 ○想像を広げて読む読み方の理解を深める。

6 展開 (1/7)

- (1) **ねらい** 「物語に込められている作者の思いについて話し合おう」という学習に意欲を持つことができる。
- (2) **準備** 教師：学習計画表を拡大した掲示物
 児童：教科書、ノート、学習計画表、国語辞典
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 単元の学習課題を知る。	5	
[学習課題] 物語に込められている作者の思いについて話し合おう。		
<ul style="list-style-type: none"> ・「ごんぎつね」の作者の思いは何だろう。 ・みんなが考えた作者の思いを聞いてみたいな。 2 学習の見通しを持ち、本時のめあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>＜本時のめあて＞ 学習課題を知り、学習の見通しを持つ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって勉強するのかな。 ・友達と一緒に読んだことを伝え合おうんだな。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ○「ごんぎつね」に込められている作者の思いを、読者として感じながら読み、互いの読みを伝え合う学習であることを確認する。 ○作者の思いとは「書かれていないけれど本当はこんなことが伝えたいということ」と説明し、作者の思いは、一人一人の受け取り方がある、と伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ○学習計画表を配布し、見通しを持たせる。 ○自分の読みを持ち、伝え合うグループを変えて、互いの読みの伝え合いをする活動を行うことを確認する。
3 教師の範読を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・作者の思いは何かな。 ・昔のお話かな。 ・ごんぎつねはどんなきつねだろう。 ・ごんぎつねはどんなことをするのだろう。 ・ごんぎつねの他に誰が出てくるのだろう。 ・ごんは○○な気持ちだろうな。 ・兵十は○○と思っただろうな。 4 音読練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・読めない漢字や意味が分からない言葉がないようにして読もう。 ・すらすら読めるようになれば作者の思いが分かるかな。 	1 0 1 0	<ul style="list-style-type: none"> ○範読の前に「菜種がら」「百姓家」「はりきりあみ」「びく」「家内」「お歯黒」といった児童になじみの薄い言葉について児童がイメージすることができるように、写真画像で説明する。 ○聞くときの観点として、作者の思いは何かを考えながら聞くことを伝える。 ○「ごんぎつね」を範読する。 ○「ほり散らす」「ふり続く」「へばり付く」などの複合語等の意味については、家庭学習で調べさせておくが、範読をしながら簡単に補足する。 <ul style="list-style-type: none"> ○読めない字や意味の分からない言葉は、辞書の活用を促しその都度確かめさせる。 ◎読めない字や意味が分からない言葉は、友達や教師に質問しても良いことを伝える。

<p>5 「ごんぎつね」の作者の思いについて感じたことや考えたことをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんがかawaiiそう。 ・ごんはいたずらばかりしているけど、本当は優しいって言いたいのではないかな。 ・兵十は、ごんを撃ってしまって後悔していると思う。 ・ごんと兵十は気持ちが通じ合っていないな。 	10	<p>◎児童のこだわりや興味を大切に、机間巡視をしながら共感的な声かけをする。</p>
<p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごんぎつね」の作者の思いを見付けながら読もう。 	5	<p>○「ごんぎつね」に込められている作者の思いを、読者として感じながら読み、互いの読みを伝え合うという単元を通しての学習課題を確認する。</p> <p>○学習計画表の自己評価欄に本時の学習について自己評価させ、本時の感想を書かせる。</p> <p>○次時は、物語の土台を確かめることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇「物語に込められている作者の思いについて話し合おう」という学習に意欲を持つことができる。(発言・学習計画表)【関心・意欲・態度】</p> </div>

7 板書計画

物語を読む時は…

作者の思いを見つめながら読む。

作者の思い

読者が物語から感じたこと。

作者の思いは、一人一人の受け取り方がある。

(学習計画表を拡大した揭示物)

9 / 学習課題を知り、学習の見通しを持つとう。

物語に込められている作者の思いについて話し合おう。

ごんぎつね

新美南吉

6 展開 (2 / 7)

- (1) **ねらい** 想像を広げて読むために必要な情報を理解することができる。
- (2) **準備** 教師：学習計画表を拡大した掲示物、物語の土台（どだい）をまとめた表
 児童：教科書、ノート、学習計画表、国語辞典
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>1 単元の学習課題を確かめ、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">[学習課題] 物語に込められている作者の思いについて話し合おう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><本時のめあて> 物語の土台を確かめよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を読むためには、ちゃんと知っておくことがあるんだな。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題を思い出させ、本時のめあてを提示する。 ○「どこ・だれ・いつ」を物語の土台（どだい）とし、物語の大体をつかむときの手立てとして押さえる。 ○物語を読むための基礎となる情報として、物語の土台（どだい）の他に、文章構造、時代背景を確かめることを伝える。
<p>2 「ごんぎつね」を黙読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の思いを考えながら読もう。 <p>3 物語の土台（どこ、だれ、いつ）について、場面ごとに表に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どこ」は場所を表す言葉を見つけよう。 ・「だれ」は登場人物だ。何人出てくるかな。 ・「いつ」は時間や日にちや季節のことを表す言葉を探せばいいのだな。 	10 20	<ul style="list-style-type: none"> ○作者の思いを意識して読むよう声かけをする。 ○読めない字や意味の分からない言葉は、辞書の活用を促しその都度確かめさせる。 ◎読めない字や意味が分からない言葉は、友達や教師に質問しても良いことを伝える。 <p>○「どこ」「だれ」「いつ」について見つけるには、どのような言葉に着目すればよいかを確認する。</p> <p>どこ・・・場所を表す言葉 だれ・・・人物の名前、呼称 いつ・・・時間、季節、時間の経過を表す言葉など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物語の土台（どだい）が分かる言葉にサイドラインや書き込みをさせながら読ませる。 ○物語が六つの場面で構成されていることを確かめ、ノートに表を作らせて場面ごとに「どこ」「だれ」「いつ」について整理させる。 ◎ 場所を表す言葉や、時間や季節を表す言葉などを具体的に例示する。 ○各自で取り組ませた後、全体で確かめる。
<p>4 「ごんぎつね」の文章構造、時代背景を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」って誰だろう。 ・茂平じいさんて誰だろう。 ・「ごんぎつね」は昔のお話なんだな。 ・昔からずっと話されてきたのかな。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ○物語に描かれている「わたし」の存在に気付かせ、「ごんぎつね」という物語が「わたし」の語りで描かれている構造になっていることを確かめさせる。 ○挿絵や言葉遣いから、時代背景を想像させる。

<ul style="list-style-type: none"> 作者の思いは何だろう。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>◇想像を広げて読むために必要な情報を理解することができる。(ノート・学習計画表)【言語についての知識・理解・技能】</p> </div>
<p>5 本時の振り返りをし、学習計画表に自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作者の思いを考える前に、物語の土台(どだい)や文章構造、時代背景を確かめておくことは大切なんだな。 	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物語の土台(どだい)、文章構造、時代背景を知ることが、作者の思いを見つけるのに役に立つ情報であることを確認する。 ○学習計画表の自己評価欄に本時の学習について自己評価させ、本時の感想を書かせる。 ○次時は、読みの視点で読むことを伝える。

7 板書計画

○「わたし」が語る物語

○昔のお話

6	5	4	3	2	1	場面
兵十のうち	おしるの前	中山様のおしるの下 吉兵衛のうち	兵十のうち 兵十のうち 兵十のうち	兵十のうち あなの中	小川	どだい 村 中山という所
兵十	加助	兵十 加助	兵十 兵十 兵十 後助のおかみさん	兵十	兵十	わたし 茂平(おじいさん)
その明るる日	月のいいばん	月のいいばん	次の日 次の日も その次の日	兵十が麦をといでいる日	ある秋 三日雨が降り続いたあと びくいたずら	昔

○物語の土台(どだい)

ごんぎつね

新美南吉

9 / 物語の土台を確かめよう。

物語に込められている作者の思いについて話し合おう。

※学習計画表を拡大した掲示物は、教室側面に掲示する

6 展開 (3 / 7)

- (1) **ねらい** 叙述を基に登場人物の人柄や気持ちの変化などについて想像することができる。
- (2) **準備** 教師：学習計画表を拡大した掲示物、物語の土台（どだい）をまとめた表
 児童：教科書、ノート、学習計画表、国語辞典

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 単元の学習課題を確かめ、本時のめあてをつかむ。	5	
【学習課題】 物語に込められている作者の思いについて話し合おう。		
<p><本時のめあて> 読みの視点で読む読み方を知り、受け持った読みの視点で読もう。</p>		<p>○単元の学習課題を思い出させ、本時のめあてを提示する。</p> <p>○読みの視点で読む、という読み方で作者の思いについて考えることを伝える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点で読むって、どうやって読むのだろう。 		
2 読みの視点での読み方を知り、読みの視点を受け持つ。	15	<p>○三つの読みの視点、人物読み・山場読み・題名読みを提示し、それぞれの読み方を説明する。</p> <p>人物読み(どうしてその人物が中心人物なのかを考えて読む) 山場読み(どうしてその場面が山場なのかを考えて読む) 題名読み(どうして「ごんぎつね」という題名が付いたのかを考えて読む)</p> <p>○中心人物はある出来事を通して気持ちが大きく変化する人物、山場は中心人物が大きく変わるきっかけとなる場面、と共通理解させる。</p> <p>○読みの視点を機械的に分担する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点で読んでみよう。 ・どの読みの視点の担当になるかな。 		
3 受け持った読みの視点で個々に読む。	20	<p>○気になる文や言葉にサイドラインを引いたり、本文の余白に書き込みをしてよいことを伝える。</p> <p>◎読めない字や意味が分からない言葉は、友達や教師に質問しても良いことを伝える。</p> <p>○児童のこだわりや興味を大切に、机間巡視をしながら共感的な声かけをする。</p> <p>◎なかなか書き出せない児童には、前時の物語の土台（どだい）の表や、「わたし」が語る文章構造について想起させ、気になる登場人物は誰か、なぜその登場人物が気になるのか、登場人物の言動についてどう感じるか、「わたし」の語りで物語が描かれているのはなぜか、など、自分の考えを持つための手掛かりとなるような助言をする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物は誰だろう。どうしてその人物が中心人物なのだろう。中心人物を通して作者は何を伝えたいのだろう。 ・山場はどこだろう。どうしてその場面が山場なのだろう。山場を通して作者は何を伝えたいのだろう。 ・どうして「ごんぎつね」という題名が付いたのだろう。題名を通して作者は何を伝えたいのだろう。 		<p>◇叙述を基に登場人物の人柄や気持ちの変化などについて想像することができる。(ノート・学習計画表)【読む】</p>

<p>4 本時の振り返りをし、学習計画表に自己評価する。</p> <p>・同じ読みの視点で読んだ友達は、作どんなことを考えたのかな。</p>	<p>5 ○学習計画表の自己評価欄に本時の学習について自己評価させ、本時の感想を書かせる。</p> <p>○次時は、同じ読みの視点で読んだ者同士で個々の読みを伝え合うことを確認する。</p>
--	---

7 板書計画

6	兵十のうち	兵十	その明るる日
5	おしるの前	兵十 加助	月のいいばん
4	中山様のおし ろの下のうち	兵十 加助	月のいいばん
3	兵十のうち 兵十のうち 兵十のうち	兵十 兵十 兵十 兵十 兵十 兵十 兵十	次の日 次の日もその次の日も その次の日
2	兵十のうち あなの中	兵十 兵十 兵十 兵十 兵十 兵十 兵十 兵十	兵十が妻をとい でいる日
1	小川	兵十	びくのいたずら から十日ほどた つて
場面	村 中山という所	わたし 茂平(おじいさん)	音

○物語の土台(とたい)

読みの視点
人物読み：…どうしてその人物が中心人物なのだろう
山場読み：…どうしてその場面が山場なのだろう
題名読み：…どうしてその題名が付いたのだろうか

作者の思い
読者が物語から感じたこと。
作者の思いは、一人一人の受け取り方がある。

9 / 読みの視点で読む読み方を知り、受け持った読みの視点で読もう。
ごんぎつね 新美南吉

物語に込められている作者の思いについて話し合おう。

○「わたし」が語る物語
昔のお話

※学習計画表を拡大した掲示物は、教室側面に掲示する

6 展開 (4 / 7)

- (1) **ねらい** 叙述を基に登場人物の人柄や気持ちの変化などについて想像し、同じ読みの視点で読んだ友達の読みと自分の読みとの異同や、友達の読みのよさに気付くことができる。
- (2) **準備** 教師：学習計画表を拡大した掲示物
 児童：教科書、ノート、学習計画表
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>1 単元の学習課題を確かめ、本時のめあてをつかむ。</p> <p style="text-align: center;">【学習課題】 物語に込められている作者の思いについて話し合おう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><本時のめあて> 同じ読みの視点で読んだ友達と作者の思いについて伝え合おう。</p> </div> <p>・同じ読みの視点で読んだ友達はどんなこと考えたのかな。</p>	2	<p>○単元の学習課題を思い出させ、本時のめあてを提示する。</p>
<p>2 「ごんぎつね」を黙読する。</p> <p>・作者の思いを考えながら読もう。</p> <p>・受け持った読みの視点で読もう。</p> <p>3 同じ読みの視点を担当した者同士でエキスパートグループを作り、読みの視点で読んだことを伝え合う。</p> <p>・ごんが中心人物だと思う。兵十に分かって欲しかったのに撃たれてかわいそう。</p> <p>・兵十が中心人物だと思う。ごんを撃って、気持ちが大きく変化したよ。</p> <p>・山場は、ごんが火縄銃で撃たれた場面。いたずらをするを取り返しのつかないことになる。</p> <p>・山場は、兵十のおっ母の葬式の場面。ごんが反省するきっかけとなっている。</p> <p>・「ごんぎつね」のことをずっと語り継いでいる。いいと思ってやったことでも相手には通じないこともある。</p> <p>4 エキスパートグループで話し合ったことを、ジグソーグループで伝えられるように準備する。</p> <p>・中心人物はごんか兵十という意見が出た。ごんがいたずらをするのには</p>	8 2 5 5	<p>○作者の思い、受け持った読みの視点を意識して読むよう声かけをする。</p> <p>○3人グループを基本にグループ編成をする。</p> <p>○友達の読みを大切に聞くよう伝える。</p> <p>○感じたり考えたりしたことを自分の言葉で話すよう伝える。</p> <p>○各グループを周りながら、共感的な声かけをする。</p> <p>◎自分の読みを伝えられたこと、友達の読みを受け止められたことを賞賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇叙述を基に登場人物の人柄や気持ちの変化などについて想像し、同じ読みの視点で読んだ友達の読みと自分の読みとの異同や、友達の読みのよさに気付くことができる。(ノート・学習計画表) 【読む】</p> </div> <p>○エキスパートグループで話し合った後、受け持った読みの視点で読んで作者の思いについて考えたことをノートに書かせる。</p> <p>◎書き方に迷っている場合は同じグループの友達のノートを参考にして良いことを伝える。</p>

<p>訳がある。ごんは本当は優しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山場はごんが撃たれたところ。ごんは一人ぼっちになった兵十の気持ちを思いやっていた。 「ごんぎつね」はごんと兵十のすれ違いについて書いている。 	
<p>5 本時の振り返りをし、学習計画表に自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ読みの視点で読んだ友達の考えには、同じ意見や違う意見があったよ。 	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ読みの視点で読んで考えたことを伝え合ったことで多様な考えに触れられたことを意識させる。 ○学習計画表の自己評価欄に本時の学習について自己評価させ、本時の感想を書かせる。 ○次時は違う読みの視点で読んだ者同士で個々の読みを伝え合うことを確認する。

7 板書計画

物語を読む時は…
読みの視点で読む。

9 / 同じ読みの視点で読んだ友達と作者の思いについて伝え合おう。

ごんぎつね 新美南吉

読みの視点

人物読み
どうしてその人物が中心人物なのだろう

山場読み
どうしてその場面が山場なのだろう

題名読み
どうしてその題名が付いたのだろう

物語に込められている作者の思いについて話し合おう。

※学習計画表を拡大した掲示物は、教室側面に掲示する

6 展開 (5 / 7)

- (1) **ねらい** 叙述を基に登場人物の人柄や気持ちの変化などについて想像し、違う読みの視点で読んだ友達の読みと自分の読みとの異同や、友達の読みのよさに気付くことができる。
- (2) **準備** 教師：学習計画表を拡大した掲示物、ホワイトボード、マジックペン
 児童：教科書、ノート、学習計画表
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 単元の学習課題を確かめ、本時のめあてをつかむ。	2	
【学習課題】 物語に込められている作者の思いについて話し合おう。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><本時のめあて> 違う読みの視点で読んだ友達と作者の思いについて話し合おう。</p> </div>		<p>○単元の学習課題を思い出させ、本時のめあてを提示する。</p>
<p>2 「ごんぎつね」を黙読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の思いを考えながら読もう。 ・受け持った読みの視点で読もう。 <p>3 違う読みの視点を担当した者同士でジグソーグループを作り、それぞれの読みの視点で読んで考えたことを伝え合い、作者の思いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う読みの視点で読んだ子はどんなこと考えたのかな。 ・人物読みで読んだよ。中心人物はごんと兵十。ごんは一人ぼっちでさみしいからいたずらをしていた。本当は一緒に遊びたいんだよ。本当の気持ちはなかなか通じない。 ・山場読みで読んだよ。山場は兵十が銃を落とした場面。栗や松たけを持って来てくれたごんの優しさに気付かずに、ごんを撃ってしまって後悔している。 ・題名読みで読んだよ。優しさでやったことでも相手にとっては嫌な気持ちになることもある。 ・違う読みの視点なのに考えが似ていた。 ・友達の言いたいことも分かる。 	<p>8</p> <p>2 5</p>	<p>○作者の思い、受け持った読みの視点を意識して読むよう声かけをする。</p> <p>○それぞれの読みの視点で読んだ者同士で3人グループを編成する。</p> <p>○友達の読みを大切に聞くよう伝える。</p> <p>○感じたり考えたりしたことを自分の言葉で話すよう伝える。</p> <p>○各グループを周りながら、共感的な声かけをする。</p> <p>○グループの意見をホワイトボードに書かせる。グループの意見は一つにまとめなくてもよいことを伝える。</p> <p>◎自分の読みを伝えられたこと、友達の読みを受け止められたことを賞賛する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◇叙述を基に登場人物の人柄や気持ちの変化などについて想像し、違う読みの視点で読んだ友達の読みと自分の読みとの異同や、友達の読みのよさに気付くことができる。(ノート・学習計画表)【読む】</p> </div>

<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループはどんな意見になったのか知りたいな。 <p>4 ジグソーグループで話し合ったことを、クロストークで伝えられるように準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい気持ちを持っていれば、人に優しくできるということを伝えたい。 ・確かめもしないで相手を疑うのは良くないということを伝えたい。 	5	<p>○ジグソーグループで話し合った後、作者の思いについて考えたことをノートに書かせる。</p> <p>◎書き方に迷っている場合は同じグループの友達のノートを参考にして良いことを伝える。</p>
<p>5 本時の振り返りをし、学習計画表に自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う読みの視点で読んだ友達の考えには、同じ意見や違う意見があったよ。 	5	<p>○違う読みの視点で読んで考えたことを伝え合ったことで、作者の思いがより多面的に考えられるようになったことを意識させる。</p> <p>○学習計画表の自己評価欄に本時の学習について自己評価させ、本時の感想を書かせる。</p> <p>○次時は他のジグソーグループの意見を全員で共有し、疑問に思ったことや詳しく聞いてみたいことなどを交流することを伝える。</p>

7 板書計画

物語を読む時は・・・

読みの視点で読む。

題名読み

山場読み

人物読み

読みの視点

どうしてその人物が中心人物なのだろう

どうしてその場面が山場なのだろう

どうしてその題名が付いたのだろう

9 / 違う読みの視点で読んだ友達と作者の思いについて話し合おう。

物語に込められている作者の思いについて話し合おう。

ごんぎつね

新美南吉

※学習計画表を拡大した掲示物は、教室側面に掲示する

6 展開 (6 / 7)

- (1) **ねらい** 友達の読みから物語を多面的に捉え、自分の読みを再構築することができる。
- (2) **準備** 教師：学習計画表を拡大した掲示物、前時の書き込みを残したホワイトボード
 児童：教科書、ノート、学習計画表
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>1 単元の学習課題を確かめ、本時のめあてをつかむ。</p> <p style="text-align: center;">【学習課題】 物語に込められている作者の思いについて話し合おう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><本時のめあて> 作者の思いについて伝え合い、自分の考えを持とう。</p> </div> <p>・他のグループはどんな考えを持ったのかな。</p>	2	<p>○単元の学習課題を思い出させ、本時のめあてを提示する。</p>
<p>2 「ごんぎつね」を黙読する。</p> <p>・作者の思いを考えながら読もう。</p> <p>・読みの視点で読もう。</p> <p>3 ジグソーグループで話し合ったことを全員で共有し、感じたり考えたことを交流する。</p> <p>・ごんはさびしかった。</p> <p>・ごんは兵十に分かって欲しかった。</p> <p>・兵十はごんを疑っている。</p> <p>・ごんと兵十は通じ合えたのかな。</p> <p>4 「ごんぎつね」の作者の思いについて感じたことや考えたことをノートに書く。</p> <p>・「ごんぎつね」は、ごんがいたずらを繰り返しながら、人の気持ちが分かるようになる物語。誰だって失敗することはある。</p> <p>・ごんと兵十は最後は通じ合えた。兵十は後悔している。</p>	8 20 10	<p>○作者の思い、三つの読みの視点を意識して読むよう声かけをする。</p> <p>○各ジグソーグループでまとめたホワイトボードを黒板に貼る。</p> <p>○児童の発言を拾いながら、ごんや兵十の言動や情景描写の中に、驚きや深い悲しみ、後悔や安堵などの心情や人柄などが表されていることに気付かせる。</p> <p>○児童の発言の中のキーワードとなる言葉を黒板に書き留める。</p> <p>○第1時の学習を想起させ、もう一度作者の思いについて感じたことや考えたことをノートに書くよう伝える。</p> <p>◎ホワイトボードに書かれていることや、黒板に書かれた友達の意見や言葉を参考に考えさせる。考えが持てたことを賞賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇友達の読みから物語を多面的に捉え、自分の読みを再構築することができる。(発表・ノート・学習計画表)【読む】</p> </div>
<p>5 本時の振り返りをし、学習計画表に自己評価する。</p>	5	<p>○学習計画表の自己評価欄に本時の学習について自己評価させ、本時の感想を書かせる。</p>

- ・作者の思いは一人一人受け止め方が違う。
- ・みんなで考えたら「ごんぎつね」のお話がもっとよく分かってきた。

○次時は学習のまとめをすることを伝える。

7 板書計画

9 / 作者の思いについて伝え合い、自分の考えを持つとう。

物語に込められている作者の思いについて話し合おう。

ごんぎつね 新美南吉

兵十の 思い込み 思い込みは取 り返しのつか ないことになる こともある	兵十への償い 一生懸命な ごん 一途な思い	銃で撃たれる ごん 動物と人間は ともに生きる	分かってほし いごんが撃た れる 通じ合えない 悲しさ 悔しさ	ごんは うなずく 分かつてもら えることの 嬉しさ	一人ぼっちの ごん 兵十のおつか あの死 ごんの優しさ 優しいつて いいな
いたずらばか りしていたごん 撃たれて死ぬ いたずらはし てはいけない	いわし 栗 松たけ 固めて置いて ある ごんの優しさ 感じさ を感じた	村人に語り継 がれるお話 相手のことを ちゃんと 見よう	一人ぼっち ごん 兵十	兵十のおつかあの死 ごんの死	兵十とごんは通じ合えたのか 人間 きつね

児童の発言から拾ったキーワード

ジグソーグループで書いたホワイトボード

※学習計画表を拡大した掲示物は、教室側面に掲示する

6 展開 (7 / 7)

- (1) **ねらい** 物語の読み方が分かる。
- (2) **準備** 教師：学習計画表を拡大した掲示物
児童：教科書、ノート、学習計画表
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 単元の学習課題を確かめ、本時のめあてをつかむ。	2	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【学習課題】 物語に込められている作者の思いについて話し合おう。 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <本時のめあて> 学習のまとめをしよう。 </div>		○単元の学習課題を思い出させ、本時のめあてを提示する。
<ul style="list-style-type: none"> ・どんな勉強をしてきたのか振り返ろう。 		
2 「ごんぎつね」を黙読する。 <ul style="list-style-type: none"> ・作者の思いを考えながら読もう。 ・読みの視点で読もう。 3 第1時と第6時にノートに書いた作者の思いを読み比べて気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは悲しいと思っていたけど、今は、ごんの気持ちや兵十の気持ちが分かってきました。 ・ごんのいたずらはひどいと思っていたけど、ごんは一人ぼっちだったからさびしくていたずらしてしまったということが分かりました。だから、同じ一人ぼっちの兵十に優しくしたのだと思いました。 ・初めの読みと比べて、考えが増えた。 ・初めより、色々なことを考えられるようになった。 	8 10	○作者の思い、三つの読みの視点を意識して読ませる。 ○ノートに書き留めてきたことを振り返らせ、一人で読んだ初めの読みと、友達と話し合ってから読みの変化に気付かせる。
4 物語の読み方を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味、漢字の読みは大事。 ・物語の土台（どだい）を押さえる。 ・作者の思いを考えて読む。 ・読みの視点で読む。 ・人物読み、山場読み、題名読みがあった。 	15	○一人だと一つの読みの視点でしか読めないだろうかと問い、一人でも三つの読みの視点で読むことができることを確認する。 ○三つの読みの視点を獲得したことを意識させる。 ◎ノートや学習計画表を見て振り返るよう促す。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇物語の読み方が分かる。(ノート・学習計画表) 【読む】 </div>

<p>5 本時の振り返りをし、学習計画表に自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点で作者の思いを考えながら読むと、物語が良く分かる。 ・この読み方を使って他の物語も読んでみたい。 	10	<p>○学習計画表の自己評価欄に本時の学習について自己評価させ、本時の感想を書かせる。</p>

7 板書計画

作者の思いを読む時の三つの読みの視点

人物読み……どうしてその人物が中心人物なのだろう

山場読み……どうしてその場面が山場なのだろう

題名読み……どうしてその題名が付いたのだろうか

物語を読む時は……

読みの視点で作者の思いについて
考えながら読む。

9 / 学習のまとめをしよう。

ごんぎつね 新美南吉

物語に込められている作者の思いについて話し合おう。

※学習計画表を拡大した掲示物は、教室側面に掲示する

学習課題

物語に込められている

について話し合おう

年組番名前

7	6	5	4	3	2	1	時間	日付
							学習計画	
○学習のまとめをしよう。	○全員で作者の思いについて話し合い、自分の考えを持とう。	○ちがう読み視点で読んだ友達と作者の思いについて話し合おう。	○同じ読み視点で読んだ友達と作者の思いについて伝え合おう。	○読みの視点で読む読み方を知り、受け持った読みの視点で読もう。	○物語の土台を確かめよう。	○学習課題を知り、学習の見通しを持とう。	A できたかな	
二つの読みの視点で読むことができた。	作者の思いについて話し合い、自分の考えを広げることができた。	ちがう読み視点で読んだ友達と作者の思いについて話し合おうことができた。	同じ読み視点で読んだ友達と、互いの読みを伝え合うことができた。	担当した読みの視点で読むことができた。	この物語の土台へどこだれいつがよく分かった。	「物語に込められている作者の思いについて話し合おう」という学習課題が分かり、高い意欲がわいてきた。	B	
							自己評価	
							振り返り	